

Q\Strip USER GUIDE

1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
本製品の性能を最大限に引き出すためにご使用前にかならず内容をよくお読みください。Q \ Strip は今でも非常に人気がある 60 年代～70 年代の伝説的なコンソールの EQ とプリアンプのセクションを再現したダイレクトボックススタイルのペダルです。オーディオ史に残るギターとベースのトーンのいくつかは、伝説的コンソールのチャンネルに「直接」接続され、録音された物です。ライブやスタジオでの録音、DAW への録音などで、熱望される伝説的トーンシェイピング回路を持ち運ぶことができるサイズに高度な機能と共に詰め込みました。Q \ Strip の 100% アナログ MOSFET 回路は、ビンテージコンソールの暖かく、太く、力強いトーンを演出。さらに、あらゆる機器に使用できる高い汎用性と柔軟性を持ちます。


2 使用上の注意

- ◆ 本機はリードブーストペダルとして使用できます。
ディストーションの前、後ろそれぞれで違う効果が発揮されます。(サンプルセッティングを参照してください。)
- ◆ Q \ Strip はキャビネットシミュレーターとして使用できます。(設定例を参照してください。)
- ◆ アンプのマスターボリュームが低すぎるためのノイズを除去するには、Q \ Strip をアンプのエフェクトループに挿入し、LPF をオンにしてください。
- ◆ LEVEL を上げ、両方の MID をブーストすることで MOSFET 回路に大きな負荷をかけると真空管アンプのような心地よいディストーションを演出しますが、非常に大きな音量となります。
注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。
- ◆ Q \ Strip はニュートラルな特性をもち、その特性を活かすために、エフェクターチェーンの中ではなく、エフェクターチェーンの最初にバッファリングしてトーンシェイピングするために、もしくは最後に損失した信号を補うために配置することをおすすめします。
- ◆ 本機はプラグが入力されると自動で電源を ON します。バッテリーの消耗を防ぐため、本機を使用していないときはプラグを抜いてください。バッテリーの電圧もしくはファンタム電源が不足すると、LED が著しく暗くなります。この時点でバッテリーを交換することをお勧めします。

3 接続

ダイレクトにレコーディングする：

XLRまたは1/4"フォン出力をミキサー/レコーダーの入力に直接接続します。ミキサー/レコーダーの入力ゲインコントロールを操作して、その入力が過負荷にならないように調整してください。本機のレベルが12時を下回っていてボードが過負荷になっている場合は、それぞれの出力レベルスイッチを使って出力を下げます。

1/4"フォンを使用している場合：+10dB オフ ()

XLRを使用している場合：-20dB オン ()

アンプとの接続：

プリアンプとして接続：

本製品の出力を直接パワーアンプ INPUT (または「エフェクトリターン」) に接続します。これによりアンプのプリアンプ部をスルーして本機でコントロール可能です。

外部エフェクトとして接続：

1/4インチ出力をアンプのフロント入力 (メインの入力端子) に接続します。最良の結果を得るには、アンプの入力が過負荷にならないように、SansAmpのレベルを必ずユニティゲイン (出力レベルが本機の ON/OFF 時ではほぼ同じ状態) に近づけてください。

PA パワーアンプへ接続：

1/4" 出力もしくは XLR を PA ミキサー、もしくは、PA パワーアンプの入力に接続します。本製品の Level コントロールで音量を調節します。

注：アンプのパワーアンプ入力またはパワーアンプを単独で使用する場合は、必ず出力レベルスイッチを次のように設定してください。

1/4" を使用している場合：+10dB オン ()

XLR を使用している場合：-20dB オフ ()

その後、必要に応じてレベルを調節します。

楽器と使用する：

アコースティック、エレクトリック、ベースギター、アップライトベース、キーボード、バイオリン、ドラム、サクソ、ハーモニカ、さらにはボーカルにも使えます。しかし、ここで紹介している以外の楽器でも高相性なものが存在します。ぜひお試しください。

楽器を使わずに使用する：

- 本機をミキシングボードに接続し、特定のチャンネルをウォームアップするための外部プロセッサとして使用。
- マイクからミキサーに直接インラインで接続する。
- ミックスダウンで既存のトラックのサウンドを強化する。
- スピーカー/マイクシミュレータとして使用して、お気に入りのエフェクト/ストンプボックスを直接録音する。

4 信号の流れ



5 コントロール

LEVEL：

全体の音量を調節します。12時の位置を0として±20dBカットまたはブーストします。大きな信号をトリミングしたり、弱い信号を増幅したり、特定のEQ設定を補正したりできます。たとえば、中音域 (MID1/MID2) を大幅にブーストすると、LEVELが下がります。逆に、中音域 (MID1/MID2) を大幅にカットすると、最小の位置でもLEVELがユニティゲイン以上になります。

LOW & HIGH：

アクティブシェルビングEQです。12時のユニティゲインから±18dBカットまたはブーストします。中心周波数は1kHzです。

MID SHIFT 1 & 2 / MID 1 & 2:

12時の位置を0として±18dBカットまたはブーストします。最も音楽的なQにプリセットされています。セミパラメトリックEQコントロールはそれぞれ40Hz-700Hzと300Hz-6kHzの範囲で調節可能です。Mid Shifts 1と2は、ミッドレンジコントロール (MID1とMID2) の中心周波数を選択し、不要な周波数をカットすることができます。

注：調節によっては周波数範囲が重複します。

HPF：

ハイパスフィルタをON/OFFします。楽器やボーカルマイクの低音ハウリングや低周波の雑音を除去します。45 Hz以下を1オクターブあたり-12dBでフィルタします。

LPF：

ローパスフィルタをON/OFFします。3 kHz以上を1オクターブあたり-12dBでフィルタします。LPFとMID 2とHIGHを組み合わせて使用することで、高音域をカットした、さまざまなスピーカーキャビネットをシミュレーションしたサウンドを演出可能です。

5 入出力とスイッチ

電源を入れる順番について：

本機の電源を最初にオンにし、最後にオフにします。機器を接続または切断するときは、スピーカーを損傷する可能性のある「ポップ」を防ぐために、プラグの抜き差しを行う前に、必ずミキシングボードをミュートにするかアンプの音量を完全に下げてください。

6 入出力とスイッチ

INPUT :

1/4"4.7MΩ、インストゥルメントレベル。プラグが入力されると自動で電源をONします。バッテリーの消耗を防ぐため、本機を使用していないときはプラグを抜いてください。

PARALLEL OUTPUT :

1/4" アンバランスバッファード出力。入力された信号は、EQ やエフェクトがかかることなく出力されます。

注：INPUT のインピーダンスは、PARALLEL OUTPUT に接続されている機器のインピーダンスによって変化します。PARALLEL OUTPUT に接続されている機器がローインピーダンス（ヴィンテージエフェクター、チューナなど）の場合、INPUT のインピーダンスを自動的に減少させます。信号の劣化を防ぐため、ハイインピーダンスが必要な場合（たとえばピエゾなど）にはパラレル出力を使用しないことをお勧めします。

XLR 出力 (Di アウト) :

バランスド 600Ω出力。EQ やエフェクトのかかった、またはバイパスされた信号をミキサーやレコーダーに送信します。

XLR OUT PAD スイッチ :

さまざまな機器に出力を合わせるための-20dBパッド。アップポジション(■)では、出力は0dB、ダウンポジション(■)では、出力は-20dBです。

1/4" フォン出力 :

アンバランスド 1KΩ出力。
EQ やエフェクトのかかった、バイパスされた信号をベースアンプまたはパワーアンプに送ります。

1/4" Output Level スイッチ :

さまざまな機器に出力を合わせるための+10dBパッド。アップポジション()では、出力は+10dB、ダウンポジション(■)では、出力は0dBです。

フットスイッチ :

SansAmp チューブアンプエミュレーション回路をオン/オフします。オンにすると、LED が点灯し、音色とゲインは各種コントロール設定の影響を受けます。XLR アウトプットと 1/4" フォン出力より効果のかかった状態の信号を送ります。
オフにすると、LED が消灯します。本機はアクティブクリーン DI として機能し、音源の信号は、各種コントロール設定の影響を受けません。

7 ファンタム電源

現在、多くのミキサーは XLR 入力にファンタム電源機能を搭載しています。本機は XLR 出力 (DI アウト) を使用した際、ファンタム電源供給を受けて作動させることができます。ファンタム電源供給時本機は電源アダプターを使用することなく動作ができます。電源は最低 24V ファンタム電源ですが、ヘッドルームを最適化し、LED を点灯させるには、48V ファンタム電源を推奨します。

PHANTOM & GROUND CONNECT スイッチ :

このスイッチを ON にする (■) とグラウンドが接続され、XLR 出力からファンタム電源の供給を受けることができます。また、このスイッチを OFF にする (■) と本機のグラウンドはカットされた状態になり、接続されているミキサー等のグラウンドに接続されていない状態になります。

ミキサーにのみ入力する場合 :

ベースを本機に接続して XLR Output をミキサーに接続している場合（そして他のアース機器が接続されていない場合）、アースを接続するにはスイッチを押し込みファンタム電源を ON にする必要があります。

ミキサーとベースアンプに入力する場合 :

XLR を経由してミキサーに接続、1/4" フォン出力を使ってベースアンプ（独自の AC アース付き）に接続する場合は、スイッチを「グラウンドリフト」モード用の位置 (■) に設定する必要があります。スイッチが ON/OFF いずれの位置でも、ノイズやバズ音がした場合は、接続している AC コンセントに問題がある可能性があります。

※ビンテージ機器を使用する際は、ノイズ対策をしっかりと行ってください。ビンテージ機器によるノイズの影響は全ての機材に影響する場合があります。

※ファンタム電源を供給する場合でも、9V 電池を接続したままにしてください。ファンタム電源のオン/オフの際に発生するノイズ対策に役立ちます。

8 サンプルセッティング

Nylon String

Acoustic Simulator

Nashville Tuning

Twin Peaks

Michael Sweet Lead Boost (Post)

Lead Boost Schenker-style (Pre)

Mandolin

Baritone Guitar

Chapman Stick

Electric Piano

4x12 Cab Sim

Brit Alnico 2x12 Cab Sim

Studio Style Clean SansAmp™ Bass Driver

Dub Bass

Fretless Bass

Aggressive Pick Bass